

寄稿

医療・福祉現場で働く

聞こえない人たちの

声

-1-

こんにちは。聴覚障害をもつ医療従事者の会代表の関口麻理子（医師）です。

当会は医療系、福祉系の資格を有する聴覚障害当事者の会です。

以前は、多くの医療資格に「聞こえないものに免許を与えない」とする欠格条項があり、聴覚障害をもつ医療従事者は声をあげられない存在でした。そんな中、2001年に9人の有志により、当事者の会が立ち上げられました。

その後、欠格条項の改正が行われ、多くの医療資格で（一部条件付きで）免許が交付されるように

なり、現在は、障害の程度やコミユニケーションの方法も様々な72人の会員がいます。

職種は医師、歯科医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨

「当事者1人の職場」で奮闘する72人の集団

床検査技師、臨床工学士、言語聴覚士、理学療法士、社会福祉士と多岐にわたります。会員が増えたとはいえ、職場ではただ一人の聴覚障害者であり、試行錯誤しながら孤軍奮闘している状況です。特

にコロナ禍ではマスクやオンラインの問題をはじめ、新たな困難に直面しました。昨年はオンラインでの交流が中心となりましたが、それぞれの経験を持ち寄り互いに学び合い、より良い就労環境を模索してきました。

今後は、医療職が聴覚障害者の職業の選択肢として当たり前になることをめざすとともに、私たちの存在を知ってもらい、私たちの経験を基に医療・福祉現場の就労環境の改善が進むことで、聴覚障害者が医療・福祉サービスを受けるときの壁を少しでもなくすことをめざしたいと思っています。

これから、いくつかの職種の会員の働きぶりや、知っていただきたい話を連載します。